氏名	益　田　　弦
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第 232 号
学位授与の日付	昭和42年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**鼓室成形術に関する臨床的研究**
論文審査委員	教授 高原滋夫　教授 西田　勇　教授 福原　武

学位論文内容の要旨

昭和31年から37年までの7年間に岡大耳鼻科で行なわれた鼓室成形術719例について，手術成績及び術後聴力の推移を検討した。聴力に関する成功率は平均46%であり，これを Wullstein の分類による各手術型についてみると，成功率はⅠ・Ⅱ型55%，Ⅲ型42%，Ⅳ型24%であった。また残存耳小骨，ポリエチレン管及びタンタルム線による人工的コルメラ形成法の成功率は平均30%であった。

術後聴力は約半数の症例において日時の経過とともに変動するが，大多数の症例が術後1年以内にほぼ安定した聴力に達した。

術前鼓膜所見と手術成績を検討した結果，弛緩部穿孔型では聴力良好な時期に手術するとこが望ましく，中心穿孔型ではむしろ聴力良好な症例は保存的に処置し，聴力が中等度に低下したものに手術を行なうことが望ましいと結論した。

新成鼓膜として使用される皮弁について，有茎皮弁と遊離皮弁の優劣を比較し，聴力成績においても術後穿孔の少ない点でも，有茎皮弁の方がすぐれていることを明らかにした。

（昭和42年2月 岡山医学会雑誌第79巻1.2合併号掲載）

論文審査の結果の要旨

本研究は岡大耳鼻科教室に於て施行した鼓室成形術719例について，術前の聴力，鼓膜所見，手術方法，術後聴力，その変動について詳細に検討し，鼓室成形術の成功率，手術適応症，施術術式の優劣に就いて論じたもので種々重要な知見を加えた価値ある業績である。

よって本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。